

## インドネシアのIT利活用はいかに？

【インドネシア発】人口が2億5,000万人を超える有望な市場を見込んで、インドネシアには自動車産業を中心に数多くの日系の製造業が進出している。外務省の海外進出日系企業実態調査（平成27年10月1日時点）では1,697拠点と、海外に進出する日系企業の総数の約2.4%を占め、タイに並び5番目に多い。日系メーカーのシェアが9割以上を占める自動車産業は、2016年度の新车販売台数が約106万。2017年度も堅調に推移し、前年比5.0%増のおよそ111万台の見通しだ。しかし、現地に進出する部品のサプライヤーからは「思ったほど市場の伸びがない」という声も聞こえる。

そうしたなかで、中国に比べると、インドネシアの製造業のIT利活用は一周遅れという印象だ。感覚では中国の10年前と同じである。IoTというキーワードは現地の日系製造業の間では、いまのところほとんど聞こえてこない。理由は大きく2つあると見る。一つは、いまだ十分なネットワークの

環境が整っていないのだ。インドネシアの現在のインターネット普及率は50.4%（InternetWorldStats.comよりデータ取得）程度。そのため、センサやデバイスからインターネット経由で様々なデータを収集するIoTを活用する環境にはまだ十分ないという状況だ。もう一つは、基幹システムやMESといったIoTを活用する前段のIT投資が、いままに進められている。もちろん、そうした中に“ラインの見える化”や原材料や製品、作業の“トレーサビリティ”といったニーズがあり、これを広義にIoTと言えなくもない。だが、日本や中国に比べると、やはりまだまだこれからというのが正直なところだ。（アスプローバインドネシア駐在・藤井賢一郎）

日本No.1生産スケジューラ ※(株)テクノ・システム・リサーチ2013年より

**ASPROVA**  
High Speed Scheduling



派程（上海）軟件科技有限公司

・会社問い合わせ先  
上海市中山西路1800号 兆豊環球大廈5B室  
TEL:021-6440-1023（日本語可）  
Mail: info@asprova.cn  
http://www.asprova.cn